水槽に入れた野菜を観察する児童

農産物実験でびっくり

チャンス シャッター

ＪＡはだのは３日、食農教育の一環で開く「ちゃぐりんスクール」で農産物の実験教室を開いた。家の光協会の職員を講師に、水を張った水槽で野菜が浮くか沈むかを調べた。

児童がスイカやキャベツ、ミニトマトなどの重さを量り、浮くか沈むかを予想。水槽に入れて、結果を観察した。その後、牛乳とレモン汁を混ぜて、タンパク質の性質が変化する実験も行った。

児童からは「重たいスイカが浮いてびっくり」「ミニトマトがどうして沈んだの」などと歓声が上がった。

通常総代会で全議案可決

さらに必要とされるＪＡへ

ＪＡはだのは5月25日、クアーズテック秦野カルチャーホール大ホールで第60回通常総代会を開いた。今後のＪＡ運営に関する最高意思決定の場で、多くの総代が出席。上程した6議案全てが可決された。

開会のあいさつで宮永　振興と地域社会の活性化から〝さらに必要とされるＪＡはだの〟を目指す」と力強く述べた。その後、均組合長が「地域農業の　に貢献し、組合員や地域これまで協同組合運動に尽力した組合員や生産組合に対し、表彰状や感謝状を贈った。

議案審議では「第四次地域農業振興計画」や２０２３年度事業計画の設定など、全６議案が可決された。

多くの総代が出席した通常総代会

議案審議で６議案が可決された

ウクライナ問題などの要因で輸入依存度の高い生産資材や燃料が高騰する他、持続可能な食料システムの構築に向け「みどりの食料システム戦略」が策定され、環境負荷に配慮した農業生産が求められるなど、農業やＪＡを取り巻く環境は、日々大きな動きを見せている。

このような情勢の中、ＪＡはだのは「ゆうきの里づくり」として堆肥の流通をはじめとした環境対策を推進。さらに「不断の自己改革」に取り組み、農業振興と協同組合運動の躍進に力を注いでいく。

総代の定数	600人
総代会に出席した総代数	543人
内訳　本人	284人
代理人	2人
書面	257人

畜産農家を緊急支援

飼料高騰に対処

ＪＡはだのは、飼料の大幅な高騰などによって経営が圧迫されている畜産農家への緊急支援を行う。畜産の事業継続を支援し、所得の向上と地域農業の活性化を図ることが狙いだ。

対象は、ＪＡはだの管内の乳用雌牛、肉牛（繁殖牛・肥育牛）、豚、鶏を飼育する生産者16人。予算額は1110万円以内で、畜種1頭羽当たりの金額を設定し、頭羽数分を支援する。

申請した生産者の一人は「経営が厳しい中、ＪＡが独自の支援をしてくれてありがたい。これを励みに試練を乗り切りたい」と話した。

夏まつりにご来場を

7月29日（土）に本所で

ＪＡはだのは7月29日（土）午後2時から本所敷地内で夏まつりを開きます。各種模擬店や、女性部の盆踊りなどの催しが盛りだくさん。ぜひご来場ください。

雨天の場合は30日（日）に延期します。

（7面に関連記事）

今月の特集
4～5面

第四次農振計画達成に向け

ＪＡはだのは、農業の活性化に向け「第四次地域農業振興計画」を策定した。組合員や役職員が実践する内容を定め、営農に軸足を置いた活動を展開していく。

ＪＡはだの

発行
秦野市農業協同組合
（神奈川県）
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711(代)
発行責任者 小島 敏雄
印刷所 ㈱JA情報サービス

ともに歩んで60年

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

ブルーベリー園地見て回る

栽培管理互いに検討

ブルーベリー研究会は5月23日、会員の園を巡回し、初夏の着果状況を確認した。収穫間近の園の管理状況を実際に見ながら、ブルーベリーの一層の品質向上に向け意見を交わした。

会員7人と県農業技術センター職員らが、4カ所の園を巡回。各園では、園主が品種ごとの実の付き具合や肥料の配合方法、防鳥ネットの張り方などを説明した。

同会は12人が、約400本を栽培している。生産するブルーベリーは、市の「秦野優良農産物等登録認証制度」に登録され、品質の高さを裏付けている。じばさんずに出荷する他、観光摘み取り園は市内外から来園者が訪れ、人気を集めている。

会員は、冬季の剪定（せんてい）講習会や出荷前の目合わせ会などで定期的に集まり、情報を共有。さらに、今年は初夏の着果時期の管理状況を見ることで、互いの技術向上に役立てた。

伊藤隆弘会長は「収穫直前の園を回ることで互いの管理状況をよく見ることができ、会員にとって良い刺激になった。今後も相互に意見を出し合いながら技術を磨いていきたい」と話した。

品質向上へ意見交わす

研究会が企画

ブルーベリーの品種について意見を交わす会員

ブドウ摘粒が大切

良質生産へ講習会

果樹部会ぶどう部は5月31日、鶴巻の園で摘粒講習会を開いた。部員7人が、大粒種のブドウを摘粒するタイミングや方法を学んだ。

県農業技術センターの職員が、粒の大きさや色がそろった品質の良いブドウに仕上げるために、予備摘粒と本摘粒を行って実の数を調整する方法を説明。実際に生育しているブドウの房で摘粒を実演した。部員は「藤稔」や「シャインマスカット」などの品種ごとに残す粒数の違いを確認しながら、摘粒のポイントを学んだ。

須藤政一部長は「粒の大きさや房の形を決める大事な作業。講習会で学んだことはもちろん、積み上げてきた経験も生かしながら品質の高いブドウを作っていきたい」と笑顔で話した。

センター職員㊧から摘粒方法を学ぶ部員

キウイ

夏の管理をしっかり

摘果のポイント確認

果樹部会キウイフルーツ部は12日、戸川の部員の園で夏管理講習会を開いた。夏の時期の管理を徹底し、良質な果実を生産することが目的。部員13人が参加した。

部員は、県農業技術センター職員から、摘果のポイントを学習。生育初期の実の肥大を促進させるため、しっかりと摘果して必要な実に養分を使わないよう、剪定（せんてい）や摘芯をすることも確認した。

石原隆男部長は「学んだことを基本に、それぞれの園の管理状況に合わせて応用し、良いキウイフルーツに仕上げていく」と意気込む。

摘果方法を確認する部員ら

営農技術 ヒント・ポイント

かながわ鳥獣被害対策支援センター 0463-22-9521
（朝原・矢野・島田）
農業技術センター 普及指導部 0463-58-0333
- 果樹花き課 果樹花き（笹屋）（青木）
- 作物加工課 作物加工（檜垣）（木下）
- 野菜課（草野）

果樹

キウイフルーツの夏季管理について

キウイフルーツの夏季管理としては「摘果」「新梢（しんしょう）管理」「病害虫防除」があります。

▼摘果

摘果とは、果実を大きくするために行う、果実の間引きのことです。果実は初期肥大が旺盛で、満開後30～40日で縦径が収穫時の8割の大きさになります。そのため、満開後30日までに摘果を行います。病害虫被害果、傷果、扁平（へんぺい）果、小玉果などを優先して摘果し、大玉で倭型の果実を残します。

残す果実数の目安は、枝の長さによって決めます。60㌢以上の長い枝は4、5個、30～60㌢程度の枝は2、3個の果実を残します。それより短い枝は1個の果実を残すか、全て摘果します。最終的な着果数の目安は、1平方㍍当たり20～25個です。

▼新梢管理

枝葉が多過ぎると、棚下に光があまり通らず風通しが悪い状態となり、果実の品質が低下するだけでなく、病害虫の発生を助長します。そのため、棚下に木漏れ日が入る程度まで新梢を剪除（せんじょ）します。

徒長枝（勢い良く伸びた枝）や枝が込み合っている部分を中心に、枝を基部から間引いて整理します。ただし、枝の数を減らし過ぎると、樹勢の低下や果実の日焼けを引き起こすため注意しましょう。

また、新梢の整理とともに、新梢先端の巻きづるを巻き始めの部分で切り戻します。これにより、新梢の伸長を抑えて枝の充実を図るとともに、冬季剪定の際の枝の取り外しが容易になります。

▼病害虫防除

7月上中旬は果実軟腐病、キウイヒメヨコバイ、カイガラムシ類の防除適期です。果実軟腐病に対してはダコニール1000またはナリアWDGを、キウイヒメヨコバイとカイガラムシ類に対してはモスピラン顆粒（かりゅう）水溶剤を散布します。

病害虫の発生を抑えるためには、農薬の散布以外にも、前述の通り新梢管理を行い、風通しを良くすることも重要です。また、果実軟腐病の病原菌は枯れ枝で越冬するため、枯れ枝は見つけ次第除去しましょう。

農薬の使用に当たっては、最新の登録内容に基づいて使用してください。

（笹屋）

除草剤割引キャンペーン

JAグリーンは農家を応援します

7月1日（土）～9日（日）

JAグリーンはだのは7月1日（土）～9日（日）、除草剤などの割引キャンペーンを実施します。期間中は特別価格で販売します。お得なこの機会にぜひご利用ください。

お問い合わせはJAグリーンはだのまで。☎81―7719

特別価格で販売する除草剤

世界の現状に理解深める

本部役員がSDGs学習会

女性部は6日、本所で持続可能な開発目標（SDGs）に関する学習会を開いた。部員で「神奈川県ユニセフ協会」に所属する花木陽子さんを講師に、本部役員21人が世界の現状について理解を深めた。

SDGsについて理解を深めた学習会

子どもの生活が「危機」

女性部は、エコキャップ運動やごみ処理施設の見学の他「JAはだの女性部エコ10（テン）宣言」など、SDGsに関する活動に積極的に取り組んでいる。

本部役員を対象にした講習会は2020年から開催。今年は、同協会で学習支援の講師として活動している花木さんに協力を依頼した。

花木さんは、自身が訪れた国で撮影した写真を使い、SDGsの17の目標に当てはめながら現地の状況を解説。貧困や差別、紛争などのさまざまな問題によって、世界の子どもたちの生活が危機に直面していることを伝えた。

参加者は、日本の子どもの貧困についても学習。日本では約6・3人に1人が貧困状態で、一人親家庭の貧困率は51％と世界の国々と比較しても高いことなどを学んだ。

活動に生かし活性化

本部役員・理事が工作教室

女性部の本部役員と女性理事は、女性ならではの視点を生かし、女性組合員が活躍しやすい環境づくりを進めている。健康や食など「生活」をテーマに、毎年意見を出し合いさまざまなアイデアを提案。今年は「ミニデイに生かせる工作教室」を開いた。

両者は、2015年から交流をスタート。毎年意見交換会を開き、これまでにオリジナル体操の考案や炊き出し訓練の講習会などを実施してきた。

7日に開いた工作教室には、合わせて21人が参加。「家の光」4月号に掲載された「チラシで作る肩たたき棒」を作った。本部役員らは、細長く棒状に丸めたチラシを20本作り、セロハンテープを貼って束ねた。その後、はさみで切りそろえたチラシの両端にビニールテープを巻き、同部のオリジナルシールを貼って完成させた。

作り方を確認し合う本部役員ら

今後は、支部活動で製作して活用方法を検討。地域住民や福祉施設に配布して体操をするなど、JAや地域の活性化にもつなげていく予定だ。

いきいき女性部活動

上支部　清戸班

班長　増田（ますだ）　育英（いくえ）さん

私たちは6人で活動し、回覧や「家の光」の配布などで顔を合わせています。班長として支部役員会に出席すると、女性部の活動を身近に感じられるようになるので、支部活動や旅行、目的別趣味グループなどには相互に声をかけ合って参加しています。

生活班の絆は強く、いざという時にも助け合えるご近所さんとして、頼もしい存在です。コロナ禍の規制もようやく緩和されました。今後、班の皆さんとお茶を飲みながら交流ができるのを楽しみにしています。

支部だより

本町支部

支部旅行

本町支部は5月23日、支部旅行で山梨県方面を訪れた。部員18人が参加した。

部員は「富士川クラフトパーク」でさまざまな品種のバラを観賞した後「浅間茶屋」で甲州ワインビーフの料理を味わった。「赤富士ワインセラー」や「ハーブ庭園旅日記河口湖庭園」も訪れ、旅行を満喫した。

富士川クラフトパークを訪れた部員

東支部

グラウンドゴルフ大会

東支部は5月31日、田原ふるさと公園でグラウンドゴルフ大会を開いた。15人が8ホールを2周して打数の少なさを競い合った。

部員は、3人一組でプレーを開始。ボールを打つ力加減や方向などを慎重に調整しながら競技を進めた。互いに声をかけ合いながらプレーした結果、櫛田真弓支部長が優勝した。

狙いを定めてスイング

南支部

健康体操

南支部は13日、南支所で健康体操を行った。骨や筋肉などの機能向上に向けて、部員23人が参加した。JA神奈川県厚生連の保健師が、体の機能について解説。一度寝たきりになってしまうと筋肉が衰え、歩けるようになるまでに約1カ月かかることなどを伝えた。その後、足踏みやスクワットなど足腰を鍛える運動を参加者全員で実践した。

講師㊨から足腰を鍛える運動を学んだ

西支部

ゴキブリ団子作り

西支部は14日、西支所で「ゴキブリ団子」を作った。夏に発生しやすいゴキブリの駆除に役立てようと、部員21人が参加した。

部員は、殺虫成分の中でも抵抗性が付きにくいホウ酸と、すりおろしたタマネギなどの材料をよく混ぜ合わせ、卵パックやペットボトルのキャップに入れた。団子は各自で持ち帰り、天日干しで1週間ほど乾燥させて仕上げた。

一つ一つ丁寧に材料を詰め込んだ

4年ぶりに酢の料理教室

万能調味料でレシピ学ぶ

女性部各支部は19、20、21の3日間、本所で「酢の料理教室」を開いた。新型コロナウイルス感染症で2020年から中止が続いていたが、4年ぶりに実施。78人が「らっきょう酢」や「ほめられ酢」などを使った料理に挑戦した。

エーコープマーク品の酢を製造・販売する大興産業㈱から講師を招いた。部員は、エーコープの酢の特徴として、化学調味料を使わず、国産米を主原料にした安全・安心へのこだわりなどの説明を受けた。

その後、2班に分かれて「オクラの肉巻き黒酢ソース」や「かぼちゃとにらのナムル」「さんまの蒲焼缶の混ぜ寿司」など四つのレシピを調理。酢の分量や食材に混ぜ合わせるタイミングなどを確認しながら完成させた。

部員の一人は「酢が万能調味料であることを改めて知った。酢を使った料理のレパートリーが増えたので、さっそく家でも作ってみたい」と話した。

協力して盛り付ける部員

7月の女性部行事予定表

2日（日）	14：00～はだの男女共同社会フォーラム2023
4日（火）	13：30～本部役員会
6日（木）	13：30～大根支部「健康講話」
〃	14：00～令和5年度JA関東甲信越地区女性組織連絡協議会リーダー研修会
12日（水）	13：30～JA健康・福祉フォーラム2023
21日（金）	10：30～北支部「廃油せっけん作り」
〃	13：30～東支部「肩たたき棒作り」
23日（日）	10：00～第2回フレッシュミズ講座
29日（土）	14：00～JAはだの夏まつり（雨天時30日）

発見頑張り屋さん No.479

平沢の一宅見（たくみ）　知明（ともあき）さん（51）

秦野の味 発信したい

平沢でイタリアンレストラン「トラットリア フーコ」を営む宅見知明さん。秦野市で生まれ育ち、これまで飲食店やホテルのレストラン、コンビニエンスストアの商品開発など、さまざまな環境で「食」に携わってきた。「いつかは自分の店を開いてイタリアンを提供したい」という夢を持ち続けていた宅見さんは、本場の技術を学ぼうと、32歳の頃にイタリアの飲食店で修業。帰国後にはケーキ屋に3年間勤め、デザート作りも基礎から学んだ。2008年に同店をオープンし、今年6月で15周年を迎えた。宅見さんが作る料理やこだわりのワインなどを求め、市内外から多くの人が訪れる。

――お薦めメニューは？

地元の農家さんから仕入れたフルーツトマト「丹沢蕃茄」を使ったパスタです。2016年には「はだのブランド認証品」に登録されました。

――こだわりは？

「地産地消」です。パスタやピザなどに、秦野産の小麦と水を使用しています。その他、秦野産の食材を使用したメニューもご用意していますので、ぜひご賞味ください。

――趣味は？

物作りです。店内の棚や洗面所などは手作りしました。アクセサリー作りや裁縫も好きなので、いつかオリジナルグッズを販売できたらなと思っています。

――今後の展望は？

これからも生まれ育って慣れ親しんだ秦野の味を多くの人に発信し、地域に貢献していきたいです。

ジャンボタニシ防除　鶴巻

地域ぐるみで10年

粒剤を散布する組合員

鶴巻地区の農家で構成する鶴巻営農組合は4日、稲を食い荒らすスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の一斉防除を行った。組合で一括購入した薬剤を配布し、組合員が各自の水田で散布した。

同組合は2014年から地域を挙げて対策し、今年で10年目を迎えた。同地区で生息が確認されてからは13年ほどたつが、個体数の爆発的な増加や被害の深刻化には至っておらず、継続的な取り組みが一定の成果を上げている。JAはだのは組合をサポートしようと、薬剤の購入費用の一部を毎年助成している。

介護保険制度について学ぶ組合員ら

健康教室が交流の場に

生産組合が8年目

戸川西生産組合は1日、戸川の「ときの家」で健康教室を開いた。組合員ら30人が、社会保障制度に関する理解を深めた。

JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院の職員から、要介護度に応じて受けられるサービスの他、地域の相談窓口となる地域高齢者支援センターなどについて学んだ。

同生産組合が健康教室を開催するのは、8回目。山田文夫生産組合長は生産組合の重要な活動と位置付け、熱心に参加を呼びかけている。山田生産組合長は「毎年顔を合わせる場として楽しみにしている組合員が多い。地域の結び付きが強まる機会にもなっている」と話した。

第四次地域農業振興計画

持続可能な都市農業の方向示す

JAはだのは、秦野の農業の活性化に向け「第四次地域農業振興計画」を策定し、JAとして持続可能な「はだの都市農業」への方向性を示した。地域農業の発展に向け、2027年までの活動戦略を明確化。計画の達成に向けて、組合員や役職員がそれぞれの役割を発揮しながら実践する具体的な内容を定め、さらに営農に軸足を置いた活動を展開していく。

地域農業振興大会で北氏が計画について講演

2008年から5年ごとに

組合員の意見踏まえ 情勢の変化に対応し策定

農業振興計画は、5カ年計画として策定した内容を基礎に、単年度ごとの事業計画に基づき、具体的な実践に取り組む。JAはだのは、2008年に初めて計画を策定してから、5年ごとに情勢に合わせた新たな計画を策定。今回が4回目となる。

第四次計画の策定に当たっては「第六次中期経営計画」で示した重点実践項目などを踏まえ、第三次計画の成果や反省、情勢の変化を受けて新たに取り組むべき課題を抽出。農業者や准組合員を対象にアンケートを実施した他、地域農業振興計画策定委員会を設置し、組合員の意見を反映させながら組み上げた。

内容は、県農業技術センター元所長で日本大学生物資源科学部生命農学科元教授の北宜裕氏が監修。3月に開いた地域農業振興大会では、計画のポイントを講演した。

農業経営や環境変化に関する課題を①持続可能な地域農業の確立②地産地消を中心とした販売力強化③地域と共生できる都市農業の推進――の3点に整理。それぞれの実践の具体策を、計画の3本柱として据えた。

宮永均組合長は「都市農業の位置付けを今一度明確にする計画に仕上げた。多様な担い手をつくり、秦野の農地を守ることで地域の農業生産を高めていきたい」と力を込める。

一つ目の柱

重点作物選定 環境にも配慮

改めて振興作物に位置付けた落花生

一つ目の柱は、持続可能な地域農業の確立だ。

秦野市の伝統作物である落花生を改めて振興作物に位置付け、今後より一層の生産振興を進めていく。

さらに、多様な担い手を確保するため、はだの市民農業塾などを中心とした新規就農者のサポート体制を強化。さらに農業関係人口の確保に向け、援農ボランティアなどで農業に関わる地域住民の増加を図る。

近年は、持続可能な開発目標（SDGs）や「みどりの食料システム戦略」を受け、農業を営む上でも環境に配慮した取り組みが社会的に求められる。それを受けてJAは、これまでも取り組んでいた「ゆうきの里づくり」の考え方に改めて着目。耕種農家と畜産農家の連携を中心に農業生産システムを構築し、減農薬・減化学肥料栽培に取り組むことにより、環境に調和した農業を推進する。

二つ目の柱

地産地消中心 販売力を強化

TACが農家に出向いて提案活動

二つ目の柱は、地産地消を中心とした販売力強化だ。地場産農産物の一層の消費拡大を進める上で、JAの販売力強化が大きなポイントとなる。

地産地消の拠点であるじばさんずでは、栽培講習会などを通じた出荷者の栽培技術向上や、生産履歴の管理による安全・安心への取り組みの他、利用者の拡大に向けたイベントを企画して集客を図る。

買い取り販売の拡大に向けては、買い取り販売システム「Tsunagu Pro」を活用。生産者の作付け状況を把握することで、販売先への有利販売につなげるなど、買い取り販売取扱量の拡大を進める。

消費者のニーズに対応した品種の選定なども行い、TAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）が中心となって作付け提案を行う。

学校給食への農産物の安定供給も重要視する。安全・安心な地場産農産物の供給の安定化と増加を図り、学校給食の地産地消を一層進めていく。

三つ目の柱

地域と共生し ファンづくり

三つ目の柱は、地域と共生できる都市農業の推進だ。秦野市は市民の9割以上が非農家のため、地域住民には農業の応援団として、都市農業の活性化に協力してもらうことが重要となる。

観光農業の取り組みを強化。「はだの農業満喫CLUB」など、観光農業振興に向けて地域住民らが農に関われるイベントを多く用意し、地域農業への理解を促すとともに、ファンづくりを進める。

さらに、都市農業ならではの多面的機能の発揮として、景観形成や地域交流などに役立つ農業の重要性を発信。都市と田舎の性質を併せ持つ秦野市の個性を生かし、地域住民に農の魅力をPRしていく。

はだの農業満喫CLUBの収穫体験

4年ぶりに農園ハイク

マップ見て収穫

極早生桃を収穫する参加者

上地区の生産組合長や農業委員らで組織する上地区農園ハイク実行委員会は10日、4年ぶりに「上地区農園ハイク」を開いた。県内外から118組288人が訪れ、開催を心待ちにしていた多くの人でにぎわいを見せた。

七つの農園が協力し、極早生桃やズッキーニ、アスパラガスなど14品目を用意した。参加者は、農園マップを見ながら約6・4キロにわたるハイキングルートをたどり、各農園で収穫を満喫した。

諸星一雄会長は「募集開始から2日半で満員になるほど多くの人から期待されていてうれしく思う。これからも地域一体となって続けていきたい」と話した。

児童と高齢者つなぐ米作り

あずまの里体験教室

農家らのサポートで田植えをする児童

市立東小学校と東地区社会福祉協議会が連携して取り組む「あずまの里・稲づくり体験教室」が7日、東田原で始まった。同校の5年生96人が一連の米作りを体験し、収穫した米は地域の独居高齢者への配食サービスとして活用する。配食サービスはコロナ禍で中止が続いていたが、今年から復活できる見込みだ。

取り組みのスタートを切る田植えは、世話人を務める地元農家の大津俊彦さんと大津博さんの他、民生委員や自治会役員ら14人が協力。児童の田植えをサポートした。児童は「田んぼに初めて入った」「お米ができるのが楽しみ」と笑顔を見せた。

市長に新茶贈る

高橋市長（左から2人目）に茶を贈呈する高梨部長ら

若手が作った和紅茶もPR

果樹部会茶業部

果樹部会茶業部は5日、秦野市役所を訪れ、高橋昌和市長に新茶と和紅茶を贈った。高梨福太郎部長ら3人が手渡した。

高梨部長らは、部員の生産する茶を原料に使った県産の銘柄茶「足柄茶」の新茶と、秦野産の葉だけを加工した和紅茶を贈呈。和紅茶を製造する若手部員に、茶葉に風を当てて発酵を促進させる装置の作成費用を支援し、後継者のバックアップに取り組んでいることなどを伝えた。

高梨部長は「部員が生産する茶を多くの消費者に飲んでもらえるよう、足柄茶のPRに力を入れていく。若手のために秦野産和紅茶の認知度も向上させていきたい」と意気込みを話した。

田植え「おいしい米になれ」

オーナー家族が汗　満喫CLUB

田植えを体験するオーナー家族

はだの農業満喫CLUBの「田んぼ農園オーナー」が4日、下大槻の水田で田植えをした。植え付けから収穫までを体験できる「農園オーナー制度」の一つ。オーナー家族ら13組35人が汗を流した。

水田を管理する㈱大地の小泉達雄代表が、苗を5本程度の束にして人差し指と中指で挟んで持つなど、植え方のポイントを伝えた。オーナーは、植える場所に目印が付いた木枠を転がしながら田植えを体験。今後は7、8月に草取り作業を行い、9月末ごろに稲刈りを体験する。

小泉代表は「子どもたちが楽しそうに体験している姿が見られて良かった。今は機械で苗を植えることが多いが、自然に触れながら手作業の大変さも感じてもらえたら」と話した。

再生水田で挑む

新農家の春木さん

孫と一緒に田植えをする春木さん

昨年から新たに菩提で農業に乗り出した春木伸夫さんが10日、遊休農地を再生させた水田で田植えに励んだ。農薬や化学肥料を使わない、環境に配慮した農業に挑戦している。

JAはだのや地元農家の協力で、15アールの農地を活用。サツマイモや大豆を植える他、市の支援を受けて水路からパイプをつないで手作業で水を引き、水田に復活させた。

春木さんは「農地を持っていないが農業をやりたいという人を仲間に招き入れ、自給自足のコミュニティーを作りたい」と意気込む。

告知板

農業機械展示予約会を開催

◎日時　8月4日（金）5日（土）各日午前9時～午後3時
◎会場　JA全農かながわ（平塚市田村）

農業機械・資材メーカーが出店し、農業機械の展示や相談コーナーが設けられます。最新の農業機械や、肥料・農薬・園芸資材も多数展示されます。

5日（土）には中古農機販売会が抽選方式で開かれます。受け付けは正午まで。JA口座からの引き落とし限定（現金払い不可）で、当選発表は当選者に電話で連絡します。

当日は農業機械センターの担当者が会場でお待ちしています。お気軽にご来場ください。

国際協同組合デー記念行事

毎年7月の第1土曜日は「国際協同組合デー」です。協同組合の躍進を願い、6月30日（金）に本所信用課と各支所・支店の窓口の利用者に、秦野産の野菜をプレゼントします。

各店舗先着30人に、キュウリ、ナス、ピーマンのうち1種類をプレゼントします。ぜひご来店ください。

セレモニーホールで盆用品

JAセレモニーホールはだのは、ちょうちんなどの各種盆用品を取り扱っています。7月、8月に迎える盆の前に、ぜひご利用ください。盆の準備はもちろん、葬儀、法事などについてもお気軽にご相談ください。

お問い合わせはJAセレモニーホールはだのまで。☎83－2727

議論進む基本法　見直しにJAグループも提案

農業を取り巻く環境の変化に伴い「食料・農業・農村基本法」の見直しに向けた議論が進んでいます。JAグループは、生産者の意見反映のため各JAから政策提案を行っています。

農林水産省は、国内の食に関する課題や、現在取り組んでいる内容などを広く発信しています。上の二次元コードから同省のウェブページをご覧ください。

空調服などの購入に助成金

JAはだのは、空調服やオプションパーツの購入費用に対して、助成金を交付しています。農作業中の熱中症対策に、ぜひご活用ください。

◎対象者　組合員とその家族
◎対象品目　JAはだのが指定する空調服・バッテリー・ファンケーブルセット
◎助成金額　購入費用の半額（100円未満切り捨て）※上限3万円
◎助成回数　JAの1事業年度当たり1世帯1回まで
◎申請受け付け　経済課、各支所・支店
◎提出書類　申請書、領収書など
◎申請期限　7月31日（月）まで（助成金予算額を超えた場合は、期限前でも受け付けを終了します）

お問い合わせは経済課まで。☎81－7717

麦類農産物検査日程について

◎日時　7月12日（水）午前10時から
◎搬入場所　本所JAグリーンはだの前
◎搬入方法　小麦出荷組合員以外の方は持ち帰り検査だけのため、検査当日に個人で搬入してください。庭先集荷は実施しません。
◎品種・銘柄　神奈川県産地品種銘柄（さとのそら、ゆめかおり、あやひかり、ニシノカオリ、ユメシホウ、農林61号）

お問い合わせは営農販売課まで。☎81－7718

農産加工品の相談受け付け

農産加工品について、県農業技術センターとJAの職員が市内を巡回し、相談をお受けします。お気軽にご相談ください。

◎日時　7月21日（金）午前10時～午後4時

お申し込み・お問い合わせは生活福祉課まで。☎72－7661

じばさんずのスタッフ募集

じばさんずは、パート・アルバイトスタッフを募集しています。働きやすい職場ですので、お気軽にお電話ください。

◎業務内容　レジおよび品出しなど
◎時給　1090円
◎時間　午前8時～午後7時　※時間内でシフト制
◎待遇　社会保険完備・交通費規定支給・車通勤可など

お問い合わせは、じばさんずまで。☎81－7707

詐欺にご注意を

県内で、市役所や警察、銀行協会などを名乗ったキャッシュカード手交型詐欺が発生していますので、ご注意ください。少しでも「おかしいな」と思った時は、1人で抱え込まず、警察または最寄りの支所・支店にご相談ください。

農業者年金に加入を

農業者年金は、農業の担い手のための公的年金制度です。原則65歳から、一生涯にわたって受け取れる終身年金です。支払った掛け金の全額が社会保険料控除の対象となります。次の要件を満たす方なら、どなたでも加入できます。

◎60歳未満の方
◎年間60日以上農業に従事している方
◎国民年金第1号被保険者（国民年金保険料納付免除者を除く）

お申し込み・お問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで。☎81－7800

じばさんずNEWS

【7月のイベント】

☆「ユースマルシェ」1日（土）
青年部の若手農家が、新鮮な野菜を対面販売します。

☆「旬の果物・野菜フェア」2日（日）8日（土）9日（日）15日（土）16日（日）22日（土）23日（日）
旬の果物や野菜にスポットを当て、店舗外の特設コーナーで販売します。

☆「おすすめ商品の特売」4日（火）11日（火）18日（火）25日（火）
産地間提携を結ぶJAの商品など、お薦めの品を特別価格で販売します。

☆「お盆フェア」12日（水）13日（木）15日（土）
秦野の小菊を中心に、お盆用品を多数取りそろえます。水菓子や和菓子もたくさんご用意します。

☆「豚肉加工商品の日」14日（金）
㈱フリーデンが国産豚を使用したお得な商品を販売します。

☆「ブルーベリー対面販売」22日（土）
秦野市内の生産者が、安全・安心な地場産ブルーベリーを対面販売します。

☆「産地特産品特別販売」29日（土）30日（日）
産地間提携を結ぶ岐阜県のJAめぐみのが、特産品の「醤油（しょうゆ）フランク」を対面販売します。

☆「たまごの日」毎週月、金曜日
店頭価格から10%引き。「みくるべたまご」は除きます。

☆「米の日」毎週水曜日
店頭価格から10%引き。

☆「肉の日」毎週木曜日と29日（土）
店頭価格から5%引き。

【Sun's　Gelatoのイベント】

☆「お得なパンセット」3日（月）7日（金）17日（月）29日（土）
クロワッサンや粒あんデニッシュなどのパン商品を5個300円で販売します。組み合わせはお好みで選べます。

☆「ワンスプーンサービス」
雨の日は、ジェラート購入でお好きな味をスプーン1杯分お付けします。

◎7、8月は休まず営業します。
※準備の都合上、イベントが変更になることがありますので、ご了承ください。

今月の生産者

寺山の　遠藤（えんどう）　茂雄（しげお）さん

出荷品目　梅、桃、ブルーベリーなどの果樹を年間6品目

品質の良いものを作ることにこだわり、木をよく観察して、適切な管理をするよう心がけています。「南高梅」は梅干しにお薦めです。これからは桃も出荷しますので、ぜひ食べてみてください。

JA住宅ローン
マイホームプランを応援します
お使いみち
住宅の新築・購入（中古住宅も含む）、マンションの購入、土地の購入（2年以内に新築し、居住する予定があること）、住宅の増改築・改装・補修資金など住宅取得費用に関するもの。
太陽光発電システム設置住宅助成金交付制度
お借入金額に応じて最大25万円助成
対象設備：太陽光発電システム
※その他、詳しくは窓口までお問い合わせください。
詳しくは各支所・支店または融資課まで　0120-954-093

24時間受付OK!
下記のローンについては　インターネットで
かんたん事前審査申し込み!!
*正式審査のお申込みは、JA窓口でお手続きが必要です。
マイカーローン　教育ローン　リフォームローン
QRコード読み取り可能な端末はこちらから
1 JAはだのホームページにアクセス
JAはだの　検索
PC・スマートフォンでご利用可能
2 サイト内の下記バナーをクリック
JAネットローン
3 必要事項をご入力
事前審査結果はEメールにてご連絡いたします。

文芸の窓

〈俳句〉（酒井　敏光　選）

初宵のほたる待ち伏せ細れ川　佐藤英美子（南矢名）
離れては住む母のこと蛍の夜　高島美和子（名古木）
小魚の竿震わせて川遊び　吉田　清美（渋　沢）
風の意に添ふや流れの姫ぼたる　菊池としえ（菩　提）
些流れに草の被さる初蛍　志賀　明子（千　村）
幻想に惑ふ銀座や蛍の夜　櫻庭　義昭（室　町）
父の日や父の特みの吾に無く　高見　清（北矢名）
田水引く渓より遠く遠く蛍　石原　松枝（渋　沢）
追憶や杜氏の呉し蛍かご　石田　陽子（ひばりケ丘）
黄木蓮黄のいろ空にかざりけり　高橋　順子（大秦町）
現世の標となれや蛍の灯　柳川みち子（栄　町）
網打てば光たばしる蛍烏賊　選者

〈短歌〉（久保寺　富男　選）

公園の楠の大樹を這い上り空に綾なす山藤の花　安居院輝雄（上大槻）
評　少し添削した。空中に広がる紫の花とその生命力に感動する。
雨あがりて深む紫陽花の花の色剪ればわが手に重み移りくる　大木かずひろ（名古木）
評　紫陽花は雨の花、濡れた花の重みの実在感が良い。
早苗田の隅に流るる水音はちゃぽちゃぽちゃぽとうまず休まず　八木　実（鶴巻北）
風そよぐレモンの花びらひらひらと我に舞い散り晩春を呼びぬ　石田こずゑ（水神町）
おさなじみの級友たちと頼朝の墓をおとなう三廻部の野辺　細田　富士（千　村）
夕暮の歌碑立つ丘に登る径雨にこぼれし桜んぼ光る　選者

※選者が添削しています。
※作品募集――毎月10日必着（締切厳守）でJAはだの組織教育課宛にお送りください。

今月の理事会

6月22日に理事会を開催し、次のことを審議しました。

▽2023年度理事報酬の配分について
▽2023年度夏期および年末手当の支給について
▽秦野市農業協同組合企業年金規約の改正について
▽JAデイサービスセンターはだの空調機器の更新について
▽経営情報の開示内容（ディスクロージャー）について
▽JAはだの創立60周年記念利用券の進呈について
▽2023年度信用供与等限度額の変更について
▽延滞債権等の処理方針について

職員人事

かっこ内は旧部署

◎5月30日付退職
湊翔平（西支所）
◎5月31日付退職
井上美紀（総務課付・休職）相原基紀（北支所）
栗原あすか（上支所）
◎6月19日付異動
信用課＝麻生麻美（南支所・育児休業復帰）

長寿者に記念品贈呈 ふれあいライフ支援事業

おめでとうございます。末永くお元気でお過ごしください。

100歳	▽大根地区＝髙橋タケ（南矢名）
99歳（白寿）	▽西地区＝横川喜久枝（曲松）
88歳（米寿）	▽大根地区＝志村マツヱ（南矢名）進邦善枝（北矢名）
77歳（喜寿）	▽本町地区＝杉山アイ子（曽屋） ▽南地区＝横尾眞澄（平沢） ▽北地区＝鳥栖興嗣（横野） ▽西地区＝小山田富男（堀山下）

※自己申告ですので、該当の方は誕生月の前月末までに各支所・支店にご連絡ください。

4年ぶりに夏まつり　催しがいっぱい

JAはだのは、4年ぶりに本所で夏まつりを開きます。会場には模擬店が並ぶ他、盆踊りやスイカ割り、花火の無料配布など、大人から子どもまで楽しめる催しが盛りだくさん。お気軽にご来場ください。お問い合わせは生活福祉課まで。☎72―7661

◎日時　7月29日（土）午後2時～同6時　※雨天の場合は30日（日）
◎場所　JAはだの本所敷地内
◎スケジュール
▽午後2時～　模擬店、JA共済自転車シミュレーター（29日のみ）、スイカ割り、ドジョウのつかみ取り
▽午後3時15分～（なくなり次第終了）　スイカ無料配布、花火無料配布
▽午後3時30分　開会式
▽午後3時45分～午後5時45分　納涼盆踊り大会（二部構成）
▽午後6時　閉会式

ドジョウのつかみ取りに挑戦（2019年）

税務相談日

7月10日（月）
午前9時30分～

法務相談日

7月20日（木）
午後1時30分～

場所　本町支所

予約制ですので、事前にお電話でご予約をお願いします。受け付け順に相談時間が決まります。
ご予約は㈱協同コンサルトはだの
☎81―2329

結婚相談日

7月10日（月）
時間　午前9時～正午

事前に電話でご予約をお願いします。4人限定ですのでお受けできない場合があります。
ご予約・お問い合わせは組織教育課
☎81―7714

秦野の農家ご飯

オクラのオイスターソース炒め

東支部　滝田（たきた）　さやかさん

■材料（2人分）■

オクラ1袋（小8本程度）、ニンニク1かけ、唐辛子1／3本、オイスターソース大さじ1／2、チキンブイヨンスープ75cc、サラダ油適量

＜作り方＞

①オクラはがくの部分をぐるりとむき、食べやすい大きさに切る。ニンニクは粗めのみじん切りにする。
②フライパンにサラダ油を熱し、ニンニクと輪切りにした唐辛子を香りが出るまで炒める。
③オクラを加えて火が通るまで中火で炒め、オイスターソースを絡める。
④チキンブイヨンスープを加え、軽く煮たててオクラとなじませる。

＜ひとことアドバイス＞

ニンニクは多めがお薦めです。お好みに合わせて唐辛子とオイスターソースの量を調整してください。

農業のユメ育みます
JA農機ハウスローン

応援1 軽トラックの購入にも！
応援2 農業機械の購入にも！
応援3 ハウスの建設にも！
応援4 農業用倉庫の設置にも！

JAグループ神奈川応援プログラム

利子補給事業
補給率 最長10年 最大 1.0%
JAが取り扱う全ての農業資金（公庫資金を除く）について、最大1.0%（最長10年）の利子補給を行っています。
※貸付条件に合致したすべての方が対象となります。
※商品にはそれぞれ下限利率があり、貸付条件等によって補給率が異なります。
※延滞等が生じた場合、延滞した元金は利子補給対象外になります。
※「JA農機ハウスローン」については、全期間利子補給の対象となります。

保証料助成事業
実質保証料 0円
JAが取り扱う全ての農業資金において、県農業信用基金協会の保証が付された場合の一括前払い保証料を全額助成するもの。一度お支払いいただいた後、全額助成いたします。
※一括前払い以外の方法により支払われた保証料については、助成の対象となりません。

詳しくは各支所・支店または融資課まで　0120-954-093

事業物件の
新築・リフォーム資金
JAにご相談ください！

●アパートやマンションなどの賃貸住宅やテナントなどの建設・リフォーム資金
●他の金融機関からのお借り換え

現在他の金融機関で借り入れしている返済計画表をご提示いただければ、借り換えシミュレーションを作成します。

詳しくは各支所・支店または融資課まで　0120-954-093

サツマ植え付け 電気柵も設置

鳥獣被害を〝実感〟

西支所運営委員会は5月28日、堀西の森戸さわやか農園で組合員のつどいを開いた。サツマイモの栽培を通じて、准組合員に地域農業や鳥獣被害への理解を促すことが目的。委員や参加者ら22人が、苗の植え付けや電気柵の設置に汗を流した。

参加者は、サツマイモの苗約250本を植え付けた。委員は地域の鳥獣被害について説明し、農地の周囲に4段の電線を張り巡らせるなど対策を講じた。

今回の活動は、准組合員が植え付けから草取りなどの管理作業を経て収穫するまでの一連の農作業を体験する、同委員会では初の試み。サツマイモは鳥獣対策として、捕獲おり用の餌が不足する冬の時期に活用する計画だ。

栽培する畑は、鹿やイノシシが多く出没する未耕作農地だった箇所で、委員が草刈りや耕うんを重ねて準備した。畑の整備や鳥獣対策をしてまで、あえて同園を取り組みの舞台に選んだのは、准組合員に農業の実情をより実感してもらう狙いがある。

三武利夫委員長は「時期を通じた農作業や、獣害に遭いやすい作物・場所での栽培管理など、農業の大変さを知ってもらえれば、理解がさらに深まる」と話した。

サツマイモ苗を植え付ける准組合員

収穫だけじゃない 管理作業の体験を

農業理解

イチゴの株を引き抜く参加者

イチゴを片付け

収穫後に5000株

はだの都市農業支援センターが取り組む「はだの農業満喫CLUB」に、観光イチゴ園で株を片付ける新たな体験が加わった。植え付けや収穫だけでなく、管理作業を体験してもらうことで、農業へのさらなる理解促進につなげる考えだ。

センターは、以前からCLUBに協力している観光農園「ファームスクエア丹沢の森」の三武裕介さんに声をかけ、人手が必要になるイチゴ園での片付け作業を企画した。

5月27日に同園で開いたイチゴ片付け体験会には、16組31人が参加。約8㌃のハウスに植えられた5000株を引き抜いた。片付け作業の前には、イチゴ狩りも体験。「紅ほっぺ」や「おいCベリー」などを味わいながら、箱いっぱいに収穫した。三武さんは「イチゴ園で最も大変な作業の一つを、多くの人に手伝ってもらえて助かった。イチゴ狩りも楽しんでくれたようなので来年以降も実施していければ」と笑顔で話した。

カーネ株引き抜き 土産用摘み取り

羽根で花卉（かき）を生産する今井勲さんは10日、全国農協観光協会が企画する「カーネーション片付け隊」を受け入れた。県内外から26人が訪れた。

参加者は、温室で土産用カーネーションを摘み取った後、株を次々と引き抜いて温室の外に運搬。支柱やフラワーネットも丁寧に片付けた。作業中は、今井さんと栽培する品種などについて会話を弾ませながら、交流を深めた。今井さんは「家族だけだと大変な作業が1日で片付くのでありがたい」と笑顔を見せた。

今井さん㊧と一緒に作業する参加者

接近！おじゃまします ㊵

仲間大切に農業盛り上げ

堀西の柳生真之さん（55）

堀西の柳生真之さんは、松田町で生まれ、小学校に入る前に秦野市に移り住んだ。大学卒業後は会社員として働いていたが、別の仕事に携わってみたいという思いから、31歳の時にかながわ農業アカデミーに入学。花卉（かき）の栽培知識を身に付け、翌年就農した。

堀山下にハウスを建てて農家としてのスタートを切ったが、就農後1年たたないうちに、ハウスが強風で飛ばされる被害に遭った。修復した後も、何度かハウスや作業小屋が飛ばされ、強風の被害に悩まされつつも、ひたむきに農業を続けてきた。

現在は、ハウスと露地の合計16㌃でキンギョソウやヒマワリなど10品目以上の花卉を栽培。切り花として、小田原の市場とじばさんずに出荷している。花持ちの良さにこだわり、畑と相性の良い品種を選定することで、消費者が長く楽しめる花を生産する。

地域の仲間を大切にする柳生さん。花き部会一般切花研究会に所属し、会員と栽培に関する情報を交わしながら技術を磨く。他にも、アカデミーに通っていた時に知り合った農家や、西小学校のPTA役員の仲間とも積極的に交流を続けている。

「各地域のリーダー的な人と知り合えたことが、大きな力になっている」と笑顔を見せる。

沼代生産組合長に就任して9年目の今年は、西地区の代表生産組合長も務めている。「地域とのつながりを大切にしながら、西地区の農業を盛り上げていきたい」と話した。

やえのちゃんぴーなマンの「JAってなに??」

来月からは新コーナーに

やえのちゃん

これまで続いてきた「ＪＡってなに??」のコーナーは、今回で最後なの。

ぴーなマン

それは寂しくなるね。でも、やえのちゃんが分かりやすく説明してくれたおかげで、ＪＡについて詳しくなったよ。今まで教えてくれて本当にありがとう。

やえのちゃん

どういたしまして。このコーナーは2016年6月から始まって、協同組合に関わる歴史上の人物やＪＡはだのの取り組み、秦野の文化など幅広く紹介してきたわね。ちなみに、来月からは新コーナーが始まるのよ。ＪＡはだの公式インスタグラムの投稿を毎月一つずつピックアップして紹介する予定だから、楽しみにしててね。

ぴーなマン

そうなんだ。いつもインスタグラムを見ているから新コーナーが待ち遠しいよ！次回からもよろしくね。